

ま な び や

# 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.44 2016年11月16日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

---

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただきありがとうございます。目黒通りの街路樹も色づき始めた11月、某教会に依頼された星を見る会&伝道集会は、晴天率データ解析が功を奏し、雲一つない快晴の夜空を満喫しました。スーパームーン二日前、地元小学校での星を見る会も快晴に恵まれ、東天に昇るプレアデス星団の美しさを親子と堪能。不安な世界情勢を直視しつつも、目を天に向けるひとときは欠かせない燃料補給です。目を地に向けて庭の手入れをしたほうが、神学校環境整備には役立つのですが、そちらは結果のみ感謝し受け取っている日々。「目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ」(イザヤ40:26a)

校長 関野祐二

## ● 伝道会議アレコレ

9月の前期最終週は神戸での第6回日本伝道会議。JEA神学委員会絡みでP1「聖書信仰」プロジェクトのリーダーを任されたものの、事前資料提出に追われっぱなし。おまけに神学委員会主催のN. T. ライト義認論ディベート分科会も初めての試みで手探り状態。本校主催の「霊性」分科会はY先生に任せっきり。どうしたことがP1プロジェクトが一番人気で二百名以上が集まるとの情報も届き、プレッシャーが募ります。こんな時は在校生に現状を分かち合い、祈ってもらうのが一番(もちろん家族や教会にも)。さて現地。在校生はもちろん、なつかしい卒業生の顔が次々に見えて、思わず握手やハイタッチ! まずは7分間P1プレゼンのトップバッター担当を乗り切りました(応援の横断幕はさすがに無し)。P1ワークショップは奇跡の直前準備で間に合い、二つの分科会とも大盛況。いずれも先駆的内容でしたが、向こう七年間の取り組み課題は見えたような気がします。終了後は在校生卒業生と夕食へ。なんとも嬉しい解放感でした。神学校ブース出店の余裕はなくても、豊かな人材でアピール出来たかな。オープンキャンパス午後の「現代を潤す霊的遺産——東方教会、カトリック修道会に学ぶ②」講演会も好評でしたよ。

## ● 東方ブーム到来!?

ほんの数年前まで遠い存在だった東方教会。以前牧会していた小田原市に日本ハリストス正教会があり、司祭とは地域牧師会で交わりもあったのですが、アイコンや香焚きなど馴染みのない文化を見聞きする程度。自分が西方の伝統に生きている自覚も希薄でした。しかし最近、物語神学やN. T. ライトなどトレンド(?)と親しみ、ロダール『神の物語』&ウェスレアン神学を学ぶに至って、底流に確かな東方神学があると知り、マイブーム到来。2012年にギリシア本土、クレタ島、キプロス島を旅して、ギリシア正教の歴史と文化に触れたことも。資料を集め(ニコライ堂書店にも行きました)、霊性のY先生から蔵書を借り(アイコンはまだ)、教理史のM先生にも教えていただいて(クラスでも東方神学が人気だそうです)、原罪やその遺伝的伝達よりも「死」

の解決に注目すること、主イエスの受肉と復活の強調、神化（テオシス）の教理などなど、衝撃の連続でした。四世紀のアウグスティヌス、中世の教会、そして宗教改革など、激動の西方を尻目に、二世紀のエイレナイオスから悠然と伝統を継承する東方。薬と手術の西洋医学 v s 体質改善と漢方の東洋医学、あるいは論理と分析の西洋思想 v s 神秘と統合の東洋思想、そんなテイストの対照を楽しんでいる今日この頃です。「学び舎」らしからぬ、少々堅い話題で失礼しました。

## ● 課外授業も多彩です

御茶ノ水駅近くの東方ハリストス正教会ニコライ堂には、以前霊性クラスにおじゃま虫で同行しました。知らずに批判だけでは始まらぬと、組織神学クラスで上野の博物館に生命の大躍進特別展を見に行ったのは昨年（ヒトゲノムパネルに大感激！）。今年とはいえば、10月学期休み恒例の学生会リトリートで、落語好きな説教AのMs教師同行による寄席（よせ）体験。牧会学クラスはMm教師の牧する教会で文字通りの課外授業。前期「世界と教会」クラスは先日、たっの希望で都内のイスラム寺院見学に行ったそう。そしてわが新約緒論クラスでは、OCビル5階エレベーター前に移転したばかりの聖書考古学資料館へ（いちおう会員です）。どこで聞きつけたか、階下の某事務所から卒業生主事らが顔出しに。わざわざ来てくださったM理事に、ブラックオベリスクとメシャ碑文の解説をしていただいたのでした（古代文字に興味津々）。クラスで「ぜひ行ってみてください」と言えば一様にうなずくのですが、なかなか実際に足を運ぶ機会もなく、こうしてみんなで行けば怖くないし、楽しさ百倍ですね。後の予定があり、二次会が出来なかったのは心残りでした。さて次はどこへ？ そりゃ、神学校から目黒通りを歩いて15分の、目黒寄生虫館でしょう。ところで何のクラスの課外授業ですかね。共に生きる霊性を学ぶ??

## ● 不可能はない、やるしかない

課題レポートのことではありません。本棚設置の話。蔵書あふれる住み込みY先生宅の住環境改善に乗り出したのは、木工がストレス解消という、3月に卒業して群馬に赴任したS牧師。最終学年の昨年度、部屋の寸法を測り、壁にぴったり収まるオーダーメイド本棚製作に着手したのでした。仕事場はぴかぴかトイレの隣にある旧ボイラー室（通称お仕置き部屋?）。いろいろあって完成は年度をまたぎ、夏休み前に。受け入れ側の準備を経て（これがたいへんでした）、搬入は10月の学期休みに決定。しかし施錠で本館1階を歩きながら、どんなものかとボイラー室を覗いてみたら、一抹の不安が。デカイのです（長さ2m超）。3階への階段を曲がりきれぬのか。そして迎えた当日夜7時。屈強な男2名（50代後半コンビ）では心許なく、たまたま図書室にいた在校生に「クレネ人シモン！」と声をかけ、無理矢理担がせることに。西側階段は途中で曲がりきれず頓挫。一同顔が引きつり、シモン（製作者もこの名）も無念の帰宅。あとは東側階段しかありません。祈るように運び上げたら、ちょうど階段手すり本棚内側に入り込み、かろうじて曲がり切れたのでした。インコのレントが見守る中、壁にジャストフィットの手造り本棚！ラウンジでご褒美のアイスを食べながら、筋肉を揉みほぐし。冷や汗はとうに乾いていました。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生79名、教職員15名による、後期授業が支えられるように。2017年4月よりプレ開講する『教育課程』の「キリスト教教育Ⅱ」「ユースミニストリー」クラス準備。
- ・ 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。